

さきょうくしゃきょうだより



マスコットキャラクター
あかりちゃん

「さきょうくしゃきょう」は社会福祉法人京都市左京区社会福祉協議会の略称です

コロナに負けず、つながりその先へ

左京区社協では、『こころのひとりぼっちをなくそう』を合言葉に誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し様々な取組をしています

知る・学び合う



オンラインを活用し、2カ所同時に研修会を開催



トピック

- P.2～3
コロナに負けない！左京区でのつながり紹介
- P.4
区ボランティアセンターの活動紹介

出会う・ふれ合う



移動販売車による、山間地域への買い物支援

支え合う・助け合う



豪雨災害支援を地域住民主体で実施

つながり①

オンラインでの、コミュニケーションに挑戦

対面での活動が制限される中、「電話や手紙、インターホン越しで安否確認はできて、顔を合わせたの会話がやっぱり恋しい」という声が聞かれました。

そこで、学区社協の役員さんと区社協職員で、オンライン（Zoom）の体験会を行いました。慣れない携帯電話の操作に苦戦する場面もありましたが、画面越しに参加者の笑顔がみられると、会場内に歓声が湧きました。慣れるためには、何回か練習する必要がありますが、「これなら遠く離れた孫とも顔を見て話せる」と喜ばれ、新たなつながり方に魅力と可能性を感じてもらいました。



オンラインを体験し、新たな可能性を実感

つながり②

豪雨災害支援を通し、日頃からの地域のつながりの大切さを実感

令和3年8月中旬にあった集中豪雨によって左京区でも床上浸水の被害がありました。家の方だけでは片づけが大変なことから、自治連合会や自主防災会をはじめ各種団体が相談し、片づけ作業を手伝うことになりました。

当日は、自治連合会や自主防災会、消防団、学区社協や各種団体など約30名が参加されました。各種団体が連携し、主体的に取り組みされており、日頃からの地域のつながりの強さを発揮されていました。

今回の経験を通し、平常時から備蓄や避難所の確認など災害に備えておくことはもちろんですが、「あの家は、おばあちゃんが一人暮らしだから避難所に1人で行けるかな？」や「あそこの家は、障害のあるお子さんがいるから避難時は手伝いが必要かも……」など、『ご近所さんのことをちょっと気にかける』日頃から顔の見える地域づくりが大切だと、区社協職員として改めて感じました。



床下の泥をかき出している様子

「京都府 マルチハザード情報提供システム」を活用すると、インターネットを通じて、お住いの「水害」「地震・津波」「土砂災害」「防災情報」について閲覧することができます。詳しくは、専用ホームページをご覧ください。



コロナに負けず、つながりその先へ

新型コロナウイルスの影響で、以前のように気軽に談笑したり茶話会をしたり、対面で人とつながる活動は、まだまだ注意が必要であり慎重にならざるを得ない現状です。そんな中でもつながるための工夫や、つながることの大切さを改めて感じる活動が、左京区にはたくさんあります。

つながり③

昔ながらの縁側での井戸端会議が、ミニサロンに早変わり！

この間、休止を余儀なくされている居場所（サロン）活動がたくさんあります。そんな中、改めて注目されているのが、昔ながらの自宅の縁側を利用したご近所同士の井戸端会議です。ふらっと立ち寄り、縁側でちょっと一息。時にはお茶やお菓子を食べて談笑したり、一緒に近所を散歩したり。会場や日時を決めて、大勢で集まることはまだまだ慎重になりますが、気軽に立ち寄り話せる場所が近所にあることは素敵ですね。そんな居場所が地域にもっと増えていけば、自然に見守り合えるまちづくりにもつながるのではないのでしょうか。



気軽に立ち寄りちょっと一息

区社協の事業紹介

日常生活自立支援事業

認知症やもの忘れ、知的・精神に障害がある等の理由で判断能力が十分でない方に対し、福祉サービスの利用支援や預金の出し入れ、公共料金等のお支払や郵便物の管理等「必要だけひとりするのは難しい」ことの相談に乗り、安心して暮らしていけるように支援する事業です。

ご利用にあたっては、ご本人がサービス内容を理解でき、自分の意志で契約をしていただく必要がありますが、利用相談はご家族や関係者など、どなたからでも受け付けています。また、本事業の支援活動にご協力いただける「生活支援員」も随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。



ご本人（手前）と支援内容を確認

『生活支援員とは』……利用者への福祉サービスの利用手続きや、日常的な金銭管理等、具体的な支援活動に協力していただける方（民生委員及び福祉サービス事業所等に所属している方を除く）で、活動していただくには、所定の養成研修をうけていただく必要があります。

地域あんしん支援員設置事業

いわゆる「社会的孤立」等の状態にあり、福祉的な支援が必要であるにもかかわらず、既存の制度や地域だけでは対応が難しい福祉的課題を抱える方に、地域あんしん支援員が寄り添いながら、行政等の関係機関、学区社協、民生委員や老人福祉員など地域との連携のもと、その方に必要な福祉的支援につなげるなど、誰もが安心して地域で暮らしていけるように支援する事業です。



地域あんしん支援員

誰もが安心して暮らしていける地域づくりを目指して活動しています！

左京区ボランティアセンターは、ボランティアなどの市民活動を応援しています

ボランティアセンターでは、ボランティア相談や車いす等の機材の貸出、ボランティア保険の加入手続き等でボランティア活動をされるみなさんを応援しています。

ボランティア講座や、災害ボランティアセンター設置・運営訓練など平常時からの防災研修や啓発活動にも取り組んでいます。また、「子ども食堂」「学習支援」等の立ち上げ相談や情報提供なども行っています。

ボランティアに興味のある方は、左京区ボランティアセンターまでお問い合わせください。

福祉教育

地域の子ども達へ学びの機会を提供しています



小学校・中学校で「車いす講座」や「認知症サポーター養成講座」などの福祉教育プログラムを提供しています。このプログラムには学区社協、民生委員、地域包括支援センター、京都市地域リハビリテーション推進センター、地域でボランティア活動をされている方等、様々な方にご協力いただいています。子ども達が福祉について学び、地域での支え合いを考えるきっかけとなっています。こうした福祉教育プログラムの提供を通じて、誰もが安心して暮らせる『福祉のまちづくり』を推進していきます。



認知症サポーター養成講座をリモートで実施



専門職の方から話を聞くことができる貴重な経験



生徒と地域の方で、ボランティア活動について意見交換



相手の立場になると気づくことがいっぱい

本紙に関する内容についてご興味・ご関心のある方はこちら。社協に関する情報は、本紙の他、ホームページ・SNSでもご紹介しています。

社会福祉法人
京都市左京区社会福祉協議会
左京区ボランティアセンター

発行責任者 椎村 悌知

〒606-8103 京都市左京区高野西開町5番地

京都市左京合同福祉センター 3階

TEL 075-723-5666 / FAX 075-723-5665

E-mail s-csw@sakyoku-syakyo-kyoto.jp

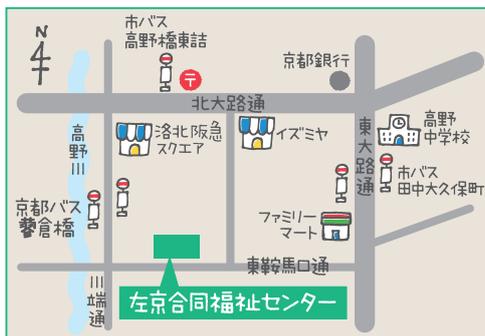
ホームページ <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/>



▲Twitter



▲Facebook



駐車場はありません。公共交通機関でお越し下さい。